

平成 30 年度第 2 回富津市民委員会 グループ 1 討議結果（要旨）

1 開催日時等

開催日時	平成 31 年 2 月 17 日（日） 午後 1 時 30 分～ 3 時 45 分
場 所	富津市役所本庁舎 5 階 503 会議室
討議事項	富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標 3
出席者	富津市民委員会委員 10 名（コーディネーター）オノミチ三由紀 （事務局）坂本企画課長、山田主任主事
傍聴人	8 人

2 討議事項

総合戦略の基本目標 3（子どもの笑顔があふれるまちへ）に記載している次の事項について、討議を実施。

- （1） 基本的な施策の方向
- （2） 課題
- （3） 地域・民間ができること
- （4） 市民ができること
- （5） 数値目標

3 討議内容（要旨）

- （1） 基本的な施策の方向① 出会いの場を創出し、結婚の希望をかなえる

基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）

出会いの場の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・富津の若い人は、富津に住んでいると出会いの場がなかなか無いため、出会いの場を求め、人が多い都会に行き、そこで生活し、勤めたいと言っているようだ。 ・都会での出会いの場は、職場や合コンなどではないか。 ・息子は、富津に住んでいると出会いの場が無いと言い蘇我に引っ越した。その結果、出会いの場は多いようだ。 ・富津で自営業、のり、農業をやっている人の出会いは厳しいと思う。やはりお嫁さんは、その家の家業を背負うということを結婚する際に考えるから。富津市内で出会うということ自体厳しいのではないか。 ・職場結婚も気心が知れる者同士でよいと思うが、富津では就職しても同期が少ないため職場結婚ができないと聞くことがある。大きな会社がある都会に出て行ってしまいうのも納得する。 ・子育てしている親に自分が配偶者に会った場所を聞いたところ、飲み会での出会いがあった。しかし、出会いはどのような場面でもいいので、過程が大事であるとの意見もあった。
----------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージとして、行政が婚活パーティーを企画すれば気軽に参加できるのではないか。 ・その他、現在の総合戦略の課題にあるように、婚活の場、出会う機会が少ないと感じている意見多数あり。
出会いに対する考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の同級生が同窓会を通じて結婚した。まさに理想例であると思うが、本当にまれではないかと思う。同窓会は、過去を知り過ぎてしまった者同士が集まるためなかなかその先に進まないこともあるので、全く知らない者同士が気軽に話せるような場が必要だと思う。 ・自分の周りに2回目の出会いを必要としている者もいるが、婚活パーティーへの参加ということが気持ちの中でマイナスに捉えてしまい、行かないと出会えないという心情になってしまう。きれい事かもしれないが、勤め先で知り合った、食事会で知り合ったというのが理想。小さいことかもしれないが、そういったプライドがある。結果、お見合いとなったとしても、体裁が欲しいのでは無いか。 ・偶然出会うのが理想。
ネーミング、イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・婚活パーティーを経て結婚した知人の親が、結婚式で「どこで知り合ったのですか？」との質問に「婚活パーティーで知り合った。」と言うのはすごく嫌だと言っていた。ネーミングとしては、婚活パーティーと言うのは良くないのではないか。 ・合コン、婚活パーティーも年配者からするとあまりいい名前ではないと思う。 ・その他、婚活のイメージが良くないと感じている意見多数あり。
仲介者	<ul style="list-style-type: none"> ・以前、市の結婚相談所に知人を連れて行ったことがあるが、相談員は本気になってくれない、全然面倒を見てくれないようだった。やはり、お見合いを仲介するような人がいた方がよいのではないか。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・顔見知りが集まるのではなく、誰が来るのかわからないというように、広範囲の方が行きやすいのではないか。 ・婚活よりも、就活が大事だと思っている。結局、働き先がなければ出会いが無いという感じになると思う。
地域・民間ができること	
出会いの場の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・どこの町内にも青年会はあるが、女性の集まりは無いと思う。また、消防団にしても男性だけだと思うので、地域でこのようなものにそれぞれ女性の集まりもあればいいと思う。
市民ができること	
出会いの	<ul style="list-style-type: none"> ・出会いの場として考えるのであれば、20代、30代の方のバレーボ

場創出、PR	<p>ールやテニス大会などを企画し、友達同士で参加して、趣味と出会いの場が一緒にできるようなものにし、その回数を増やしていった方がよいのではないかと。また、このような趣旨で場所を利用する際は施設利用料を無料にすれば遊びながら気軽にできるのではないかと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富津の人と結婚するとこんなにいいところがあるということ、近隣市、千葉県全体にPRしていく。また、このことは地域でも自分自身でもやろうと思えばできると思うので、身近なところからやっていきたい。
仲介者	<ul style="list-style-type: none"> ・昔は、お見合いを仲介するような女性、生命保険会社の女性が紹介してくるケースも多く、上手くいっていることもあったと思う。今は、そのような話は聞かなくなった。 ・いろいろな出会いの場に自分から行くのはやはり勇気がいると思うが、先輩が声を掛けると行きやすくなる場合もあると思う。私もそういう機会があれば声を掛けていきたいと思う。
その他（体験談等）	
<ul style="list-style-type: none"> ・昔は、同級生、学校の先輩や後輩、同じ大学などで結婚することが多かった。 ・昔は結婚式で呼ばれた者同士で結婚した事例などはよくあった。 ・独身主義者が多いのでは。また、結婚しても子供を作らない人もいるということも聞く。 ・私の周りでは結婚していない人がたくさんいる。息子も含めてだが、やっと結婚しても本人は60歳、相手は58歳という場合もある。そうなってくると少子高齢化の解消や「子どもの笑顔があふれるまちへ」という目標まで進まない。 	

(2) 基本的な施策の方向② 出産、子育てしやすい環境の整備

基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）

見守り、ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で登下校時の児童の見守りをしている。大貫地区の吉野や佐貫の子供たちは学校と自宅の距離が遠く親は心配だと思ふ。 ・自分が積極的に子供の見守りや安全について関わっていても、防災行政無線から毎日流れる「地域で子供を見守りましょう」を聞く度、地域や自分自身としても関わっていかねばならないと思う。 ・地域でボランティアが通学につき添う、校舎入り口に立つなど活動しているが、これは歩道などを整備していないところがあり安全面に不安があるから実施しているのではないかと。思う。 ・田んぼ道の草が伸びて子供たちが通学する様子が見えない場所がある。富津は防犯カメラがあまり付いていないため、そのような場所を悪用し、車で誘拐されることもあるのではないかと。行政か
------------	---

	<p>ら田んぼの持ち主に草刈りを頼み、通学路の安心を図ってほしい。</p>
産婦人科、小児科の不足	<ul style="list-style-type: none"> 子育てのしやすさを考える前に、出産しやすいまちづくりが重要。富津市に以前は熊切産婦人科、町沢産婦人科があり、夜間でも無理を聞いてくれた。また、子供がある程度大きくなると小児科も必要になるが、富津市には小児科、専門医も少ない。都会であれば専門医が多く、若い人は安心できる都会に行くのではないか。そのようなことを考えると富津は子育てしやすいかとなると首をかしげてしまう。 天羽地区の小児科は原田内科小児科医院しかなく、車で行かなければならないため非常に困った。
子育ての相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> 昔は子育ての体験などを周りに話し、子育ての仕方、不安などの相談に乗っていたが、今は仕事などで忙しくなりそのような機会は無くなった。 子育てで不安になったとき、仕事場の先輩や実家の親によく相談した。「子育ての話 何でも聴きます窓口」があるということをもっと周知する必要がある。実際に相談に行かなくても、いつでも相談してくれる場所があれば安心すると思う。また、田舎だと色々陰口たたく人もいるので秘密厳守となると気軽に相談しやすいと思う。気軽に行けるような体制が整っていることを市民に浸透させるようにアピールするのも大事。 今の若い人は、子育ての体験などをSNSで知ることもあるが、心の問題となると、SNSだけではすまない場合もある。誰かに聞いて欲しい、聞いてもらっただけで楽になる、うつがなくなるということがある。
声掛け	<ul style="list-style-type: none"> 最近では、公園で大人が子供に「さよなら」と声を掛けただけで通報されたりすることもあり、気軽に声掛けすることは難しい場合もある。また、男性からの声掛けは女性からよりも難しいと思う。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 横浜から移住した家族は、富津では車が無いと何もできないと言っていた。また、青堀駅にエレベーターが無く、ベビーカーを持って行くと不便さを感じたと言っていた。 職場のスタッフが育児休暇後の仕事復帰のために子供を保育所に預ける申請をしていたが、市からなかなか返答がなく、不安になった母親は託児所併設の他の会社に移ってしまった。仕事復帰したいと思っても手続きが預けたい親たちの目線に立っていないので、スムーズにしてもらいたい。
地域・民間ができること	
該当意見無し	
市民ができること	

<p>情報共有、声掛け</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・親自身も子育ての情報にもっと目を向けていかなければならないが、市民ができることとして、知り得た情報を近所の母親たちに教えてあげるなどの声掛けも大事。 ・自分の昔の経験として、下校時に1人で帰ることが結構あったが、当時母親から、とにかく顔を見た全ての大人たちに挨拶をしないと教えられていた。その理由は、有事の際、普段から挨拶をしていれば周りの大人も気にしてくれることや助けになってくれるかもしれないから。このようなことを中学、高校まで行っていた。 ・市民ができることとして、今回の討議を通じて子供に声掛けをしていかななくてはと思った。
<p>その他（体験談等）</p>	
<p>・横浜から移住してきた家族が言うには、富津は自然がいっぱいで、古墳が多く、住みやすいところだと。また、空気がきれいなので、沖縄ほどではないが、夜にオリオン座がきれいに見え、食べ物がおいしく、都会と比べてごちゃごちゃしてなくてとても住みやすいところだと。人も温かく、子育てに手厚い制度があり、3人目の保育料が無料だったので3人目を産むことができたとのこと。</p>	

(3) 基本的な施策の方向③ のびのび学ぶ教育環境の整備

<p>基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）</p>	
<p>学校、給食情報の周知</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昔は「給食の試食会」が年に1回位あった。子育てから遠ざかってしまったので、今はご飯が中心であることなど知らなかったこともある。そういった意味でも現状を知ることによって試食会があれば行きたいと思う。私たちも関心を持たなくてはいけない。 ・富津小学校が「はまゆう」というかわら版を20年位作っており、子供はもう大きくなってしまったが、これを見る度に学校とのつながりを感じる。継続は大事だと思った。 ・学校の情報について、飯野地区では飯野小学校が「飯野っ子」というかわら版を作っている。 ・湊地区では児童が米を作りバザーなどで販売を、天神山小学校では豆腐を大豆から作る授業をやっている。このような事例を広報ふっつなどで周知した方がいい。 ・「教育環境や学校給食に関するニーズに応じた情報提供」という課題が引き続き課題として認識する必要があると感じる意見多数あり。また、その情報提供の方法として、地域で回覧するだけではなく、富津市全域で情報共有をすることも重要であると感じる意見多数あり。

子供会の衰退	<ul style="list-style-type: none"> ・子供会では、花火大会、キャンプ、色々な行事をやっていた。昔は、1つの部落で子どもが30、40人位いたが、今は3、4人と少ない。子供会自体が衰退している。 ・今は子供も少なくなってきたので、活動自体が減っているが、昔は子供会で遠足があり、母親、父親も参加し、地域が活性化していた。今は仲間だけで行っているようだ。
地域を知る体験	<ul style="list-style-type: none"> ・子供が小学校5年生の時、体験学習として漁船に乗り、釣りをしたが、いまだに兄弟同士でも楽しそうに話をしている。なかなかできない体験なので、続けてもらいたい。
地域・民間ができること	
地域で子供を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ・「まちの先生」以外に地域では祭り囃子の笛を教える方がいる。 ・地域でお祭りのお囃子を教えているが、その他にも山車を引くことに例えて、「上り坂」、「下り坂」、「まさか」もあると教えることもある。また、お囃子も稽古なので、礼儀なども学習させている。 ・手話サークルで子供たちに単語から教えている。これにより障がい者にも目を向けることになると思う。
市民ができること	
学校、給食情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報についてはPTAに直接聞いている。
その他（体験談等）	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校では地域のことを学ぶ場として、校外学習や職場体験があった。 ・防災について、子供を安全に育てるには、家庭でも学校でも、子供たちに防災の気持ちを強く持ってもらう教育が必要と感じる。 	

(4) 数値目標 子育てしやすいと感じる世帯の割合（市民意識調査）

数値目標
<ul style="list-style-type: none"> ・「富津市は子育てしにくいところだと思う」の割合が速報値で10.1%減少したことはすばらしい。市は国に言われている以上に情報発信をしていると思う。 ・「富津市子育て応援ガイドブック」について、全員に送っていないのであれば数値目標を100%にするのは無理だと思う。市は100%にしたいと思うのだが、絶対に無理だと思う。皆が知らなければ皆で数値を上げようという気持ちにならないのではないか。 ・ホームページで子育ての情報を載せているが、私自身、ホームページで子育ての情報は見ない。ホームページは自分の調べたいことしか見ない。 ・次期戦略でも数値目標を100%にするのは無理だと思うが、市としても子育てについては数値を大きく持った方がよいと思うので、85%から95%に高くし

てはどうか。

- アンケートの設問が分かりにくいと思った。
- 数値目標は50%でもいいと思うが、高い数値を目指すのであれば、本日の討議で皆があと一息頑張れば課題解決につながると認識した意見等を踏まえて目標を立てていくと、皆の士気も上がると思う。